

(案)

県民評価者による改善提案に対する現時点の対応状況（2班）

政策 2 安心して暮らせる医療・福祉の充実	
中柱 4 健全な心身を保つ環境の整備	健康福祉部障害者支援局
<p>(改善提案①)</p> <p>自殺の背景は様々であるため、相談者の性別、年代にあった相談対応ができるよう、対応の多様化を進める必要がある。</p>	<p>(回答①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク者の身近な相談役としてゲートキーパー（以下GK）を位置づけ、市町では職員や住民を対象に、県では職員や大学生、健康保険組合、企業等を対象にGK一般研修を実施している。 ・令和2年度から市町自殺対策推進計画の進捗チェック項目として、「市町職員に対してGK養成研修を実施すること」を追加し、実施を推奨している。 ・こころの電話相談を実施し、新型コロナ関連及び熱海の土石流被災者等からの相談を含め、自殺予防対策の一環として多種多様な相談を受けている。 ・今後は、様々な年代のGKを養成するために、以下の研修を実施できるよう、GK講師養成研修の内容を検討していく。 <ul style="list-style-type: none"> ①若者向けには、県内の大学生を対象に県が、中高校生を対象に市町がGK一般研修を実施 ②働き盛り世代には市町では職員対象に、県では企業や健康保険組合を対象としてGK一般研修を実施 ③高齢者世代には民生委員等を対象としたGK一般研修を実施 ・市町自殺対策計画の進捗管理支援の中で、自治体職員向けのGK一般研修の実施体制が充実するよう支援する。 ・電話相談員の資質向上のため研修内容を充実させる。

<p>(改善提案②)</p> <p>ゲートキーパーが自殺予防の役割を適切に発揮するためには、ゲートキーパー養成研修の実施やスキルアップを行い、相談者の特性に応じた対応ができるようにする必要がある。</p>	<p>(回答②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GKとしてのスキルアップ研修としてGK専門研修を実施し、専門研修修了者で行政の職員等を対象に講師養成研修を実施している。 ・GK研修の内容について、毎年の特徴的な話題を組み込むよう工夫しているが、今後は、様々な年代の相談に応じられるよう各ライフステージにおける特徴や自殺リスク等についての内容を追加する。 ・令和元年度の県精神保健福祉センターの研究で、GK講師養成研修受講後は、①GKとしてのスキルが上がること、②講師を経験することでGKとしての自己効力感が上がる事が明らかになったため、講師を経験する必要性を研修の中で伝えていく。 ・GK手帳の内容を充実させていく。
<p>(改善提案③)</p> <p>ゲートキーパーや相談窓口等を含めた自殺対策に関する情報が得やすい環境を整備するため、メディアの活用やポスター掲示のほか、SNS等による若者を対象とした広報活動を進めていく必要がある。</p>	<p>(回答③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の周知等のため、自殺に関連したワードを検索した方を相談窓口サイトに誘導する検索連動型広告を実施しており、自殺リスクを伴う悩みを抱え、相談ニーズが高まっている方に、即時に適切な窓口を表示する一定の効果が得られているが、令和3年度県政世論調査結果によると、「静岡県で実施している自殺対策」を「どれも知らない」人が29.7%を占めることなどから、悩みを抱えた方が相談できる窓口の更なる周知が必要である。 ・今後は、心の健康に関する相談窓口やSOSへの気づきに係るミニ動画を作成し、精神保健福祉センターや県障害福祉課のホームページに掲載するなど、WEBを積極的に活用してPRしていく。

<p>(改善提案④)</p> <p>自殺対策に関する組織図を作成・公表し、地域や団体、企業等の連携を進め、自殺を考えている人に寄り添った支援ができる体制をつくる必要がある。</p>	<p>(回答④)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、県では、自殺対策連絡協議会、庁内連絡会議、地域自殺対策ネットワーク会議（健康福祉センター単位）を開催し、市町においても、令和2年度末現在で27市町においてネットワーク会議を開催している。 ・今後は、県において、自殺対策に関する関係機関がわかる組織図等を作成・公表するとともに、市町においても、地域の自殺対策の関係機関の情報がわかる資料を作成し、公表するよう働きかけるなど、地域の各支援機関の連携がとれた支援体制を構築していく。
<p>(改善提案⑤)</p> <p>自殺対策の第一歩は、地域や家庭等、周囲の人が悩みを持った人のSOSのサインに気付き悩みを聞くことであるため、サインに気づけるよう周知する必要がある。</p>	<p>(回答⑤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GK研修を通じ、悩みを持った人のSOSのサインへの気付きについて周知している。 ・より多くの方が、サインに気付けるよう周知するため、様々な年代に対してGK養成研修を実施していくとともに、SOSへの気づきに係るミニ動画を作成し、精神保健福祉センターや県障害福祉課のホームページに掲載するなど、WEBを積極的に活用して、PRしていく。